

Ⅱ 教育目標

みなさんが暮らすことになる未来の世界は、これまでになく予測不可能なものになりそうです。環境、エネルギー、文化間・階層間の衝突といった問題はまだ解決されないまま、「先進国」では人工知能やロボットの導入により現在の仕事の半数近くがなくなると予想される一方で、100年も生きなくてはいけない。…いったいどんな社会になるのでしょうか。というより、どんな社会を目指していけば良いのかすら明確ではありません。しかも変化のスピードは増すばかり。みなさんが身につけた「最先端知識」はすぐに当たり前のことになってしまいます。このような時代をポジティブに生き、すべての人々にとってすこしでも幸せな社会を構想・実現しそれを担う知的能力と意欲を備えた人材を養成する教養教育の重要性は、ますます増大しています。

教養教育は単なる「専門教育を受けるための準備」ではありません。狭い領域を掘り下げる専門知識を学ぶ前に「広く浅くいろんな知識を学んでおくこと」でもありません。いまある社会のいまある仕事をこなしていくための「社会人力の基礎を涵養すること」でもありません。教養教育は何か別のものための「準備」ではなく、それ自体完結した目標を持っています。すなわち、未来社会の設計者としての心的態度（マインドセット）を育てることです。これにそれぞれの専門的スキルと知識が加わることによって、初めてみなさんは人類社会に貢献する「勇気ある知識人」に自己を形成することができます。

本学は、人類の未来から教養教育に付託された使命の実現に向けて、次の諸点に力点を置いて高度な教養教育を実現しようとしています。

(1) 四年一貫の系統的なカリキュラムの編成

全学教育、学部教育は、それぞれの教育理念と目的に従って、系統的な四年一貫教育（医学部医学科は六年一貫教育。）を全学的協力のもとに実施する。

(2) 総合的な判断力の養成

個別的授業科目の羅列ではなく、学際的視野や相互関連的知識を与え、現代社会が直面する基本的な課題群に総合的に対処し得る能力を養成する。

(3) 学生の主体性と学ぶ意欲の尊重

学生が自ら選んだ専攻に関連する科目を主体的に履修できるよう、科目の適正な学年配分を行うとともに、他学部が開講する科目や全学的に開講される科目を履修できる途を開く。

(4) 国際化への対応

基礎教育としての外国語教育を強化するとともに、外国語を通じて異文化理解を深め、21世紀の国際社会に即応できる人材を養成する。

教養教育院では、各学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、次の教育目標を掲げ、実現するための教育課程を編成しています。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ①総合的な判断力と思考力を培う | 国際理解科目、現代教養科目など |
| ②学生の主体性と、学ぶ意欲を育む | 基礎セミナー、超学部セミナーなど |
| ③人間性を育むコミュニケーション能力を培う | 健康・スポーツ科学科目、
言語文化科目など |
| ④学部間に共通の基礎的学力を培い、探究心を養う | 人文・社会系基礎科目、
自然系基礎科目など |